

よい語り わるい語り アンケートを見る

ぼくは昔から自分が主催するイベントでは「おもちゃ箱フォーラム」でも「夏のものごとライブ」でもたいていアンケートを配らせてもらってきた。それ用の細い鉛筆も参加人数分用意してある。

本番までは他にやることが多いので、アンケート作りはいつもぎりぎりになるが、とにかく設問を手で書いて印刷し、会場にもちこんでいる。忙しさが増えるがこれは欠かせない。

アンケートを書いてもらうのはとても大切だ。

それも形式的にするだけでは意味がない。

語り手はステージからいろいろ発信できるが、それに対して聞いている側は拍手くらいしか想いを表現できない。

だからアンケートは聞き手の想いを吐露する場だ。

どうしたらもっといいステージになるのか、未来に向けて建設的な意見をもらわないと変わっていけない。

だが、参加者にアンケートにつきあってもらうには前提がふたつある。

まず「つまらなかった、これは自分とは関係ないステージだった」と思えば客はアンケートなど書かずにさっさと帰ってしまう。

だから「それなりにお客が共感できる会ができた」というのが第一関門になる。

想いを文章にして吐露するというのはなかなかめんどろな作業なので、(この会をもっと応援したい)という気になってもらえないと、ていねいな答えは期待できない。

だから逆に言うと、アンケートの回収率がいいステージはよいステージだったと思って、だいたいまちがいない。

ふたつ目には答えたい、答えてもいいと思える設問を用意することだ。

ぼくの場合は設問はだいたい次のようになる。

◎名前 記名・無記名どちらでもどうぞ。

ほんとうは記名の方がありがたい。

というのも苦情があったとき、それがもっともな話ならその人にあやまることができるし、

誤解なら「それは誤解です」と説明することもできる。

だが、苦情を書いてくる人はたいてい無記名で来る。

まあ、わかるけれど。

◎性別 (男・女)と並べて書いて丸をつけてもらう。

深い意味はないが遊びで(いい男・いい女)なんてしたこともある。

のりのいい相手だと「すごく」なんて書き添えてきたりする。

◎年齢 これはその会の性格によって聞きたい場合とそうでない場合がある。

とくにどうでもいいと思えば(子ども・おとな)という選択肢だけですませればいい。

詳しく聞きたいなら(20代・30代…)と並べていく。

ちなみにこれをするなら80代くらいまですること。

最期を(60代以上)なんてくくってしまうと60歳の人が

「私は80代といっしょですか！」とムツとする。

◎職業 職業と言うより、会とのかかわり方を聞きたいのが本来。

ものがたりライブだと「図書館司書・学校司書・小学校教員・

図書ボランティア・ストーリーテラー・その他」なんて選択肢にして

マルをつけてもらった方がそのあとの回答が腑に落ちることが多い。

「その他」には書き込み欄も作る。

ばくぜんと「公務員・会社員・主婦・自営業」なんて選択肢を作っても意味がない。

◎この会をどこで知りましたか？ これは次の会の宣伝はどこにお金をかけたらいいか、

どこに重点を置いたらいいかを知るうえで重要。

「ホームページで・チラシで・人から聞いて・〇〇で見て」など。

◎杉山亮のものがたりライブはいかがでしたか？

端的に感想を述べてもらう。

◎聞いた中でおもしろいと思った話を教えてください。

だいたい、ただ感想を問うだけだと「おもしろかった」とか「よかった」で終わってしまう。

でも、こういうふうに具体的に質問すると「どんな話を聞いたんだっけ？」と
思いをめぐらし、笑った話やしんみりした話の自分はどこに心が動いたんだろ
うと考えてくれ、具体的に書いてくれるものだ。

◎子連れの方はお子さんの感想もお聞かせください。

小学生は自分で書いてくれる子も多いが、もっと小さい子については親に

様子を書いて教えてもらおう。

「〇〇の話でキャッキッと笑ってました」なんて書いてあると嬉しくなる。

◎ゲストのステージはいかがでしたか？

ぼくが東京でする夏のものごとがたりライブでは、ぼくの語りの合間にゲストにステージをお願いしている。

たいていは友人・知人だが語りの人のこともあるし、ジャグリングやマジックやパントマイムのような色物だったりもする。

全部終わったあとにゲストは興味津々でアンケートを読んでもくれる。

◎この会の申し込み方法、時期、会場、参加費、スタッフの対応はいかがでしたか？

これはぼくのステージ上のこととはまた別に一項たてる。

制作部が熱心に読む部分。

客は自分が無視されたり、不親切にされたりすると、それが心に残って全体が楽しめなくなる。

だが、何年も続けて反省と改良を重ねてきている会なのでもう、そんなに苦情はない。

◎今後のために、あえてここはこうした方がいいのでは？と思うところがあれば教えてください。

共感したステージであれば、人はわざわざ悪口は書かない。まして知り合いなら今後の付き合いがあるから、なおさらだ。

でも、「あえて」と書き添えると「そう言われたからあえて書くんですよ」ということで、辛口の指摘をしやすくなる。

中には「言われても困る」「そんな自分勝手な」というものもある。

たとえば同じ会のアンケートで「冷房がききすぎた」という人と「会場が暑かった」という人が両方いたことがあった。

そのあたりの微妙な差は個人の感覚だからどうしようもない。

こちらがアンケートの答えから今後のために読み取らなければいけないのは

「冷暖房には気をつけよう。暑すぎたり寒すぎたりすると、ものごとを聞くどころではなくなってしまう」ということ。

そして、もちろん、こちらは冷暖房に気を使っていたつもりなので、今後も気をつけていこうということになる。

むしろ、「暑すぎた」と「寒すぎた」が両方いたということは、だいたい平均の温度に設定できていたということかと思う。

そして、お客さんの方もこうして書いて振り返ることで「次はこういう場所には薄手のカーディガンを一枚持っていた方がいい」とか「センスをもっていこう」とか、感じる事があれば、お客の方も実は見巧者に近づけているというものだ。

あまり建設的とはいえない感想ももちろんある。

たとえば「うちの子にはむずかしすぎた」というのは、必ずある。

でも、それはこちらに言うことではないだろう。

ではその子に合わせたら、今度は他の家から「うちの子には簡単すぎた」とかなるかもしれない。

「むずかしすぎた」とか「かんたんすぎた」というのはやはり

(いろんな会に通えばこういうこともあるよな。)

思ってもらえない。

芝居や寄席に行って、大勢の客をさしおいて

「うちの子にあわせろ」と演者に言えるはずもないのだから。

でも、そういう中でも子どもは子どもなりになにかを得ているかもしれない。

ぼくは小さいころから親に連れられて歌舞伎を見に行ったりしていた。

もちろん、筋はわからないし、なにを言っているのかもさっぱりわからない。

役者の動きも少ない。

だが、不思議なことにいやだったという記憶はない。

親ははものがたりを筋でとらえて「わかったか、わからなかったか」という

単純な見方をするが、子どもは断片的なところでも楽しめるし、

別の楽しみ方をさがして、その場をしのいでいったりするものだ。

で、「あえてこうした方がいいと思うところがあったら…」という設問は実は気の小さい人はやめた方がいい。

調子に乗って言いたいことを言うてくる人はいるので、

それを全部、真に受けていると落ち込むかもしれない。

ぼくのステージについて「身振り手振りが大きいのが気になりました」とか

「早口のところがあった」とか、鬼の首を取ったように書いてくる人は時々いる。

語りとはゆっくり、体を動かさずにするものだと思い込んでいる。

まるで音楽はクラシックしか認めませんといっているようだ。

でも、ステージ上の動作やことばはたいてい、こちらは確信を持ってやっている。

ゆっくりしゃべることもあれば、あえてたたみこむように

早口につらねを言うておもしろがってもらえることもある。

だから、ぼくはつつこまれても動じないが、(自分はほめられて伸びるタイプ)

と

思う人は、この設問ははずした方がいいかもしれない。

でも、時に「なるほど」と思うものがあるのも確かで、やはりやめられない。たとえば「杉山さんはずっと一階席の人に向かってしゃべっていましたが、二階席にいる親子も無視しないでください」というのがあった。

無視する気はなかったが、そういわれると、つい手前の人にばかり視線をやって二階の方を見なかったことに気がついた。

疎外感を味あわせて申し訳なかった。

以後、前後左右だけでなく上下にもまんべんなく視線を送って大勢の大人や子どもたちとアイコンタクトしながらしゃべるようにしている。

これなどは参加者に教えてもらったステージングだ。

◎その他、なんでも自由にお書きください。裏も使ってください。

とにかく、ぼくのアンケートは記述式のところが多い。

だから、ステージが終わってもみんないすから立たずにせっせと書いてくれる。

くりかえすが、ものがたりライブはみんなで船をしたててものがたりの海に船出するイメージでやっている。

乗組員の声をひろって変わり続けて行く努力をしないと。

そして、みんなの声をに入れて変わっていく様を次回に見てもらって

乗組員に「自分もクルーだ」という自覚を持ってもらわないと。

やる気がない乗組員ばかりだと遠くの海までこぎだせない。

アンケートには実はそんな目論見もある。

ステージが終わってお客が帰った後、ゲストやスタッフとまるくなって、お茶をのみながら

アンケートを回覧する。

面白い答えや気になる答えを見つけた人はそれを読み上げ、感想をいいあう。

「そういうことなら次回からはここはこうしましょう」と会場設定の変更になることもある。

くりかえすがアンケートは重要だ。